

第5回南砺市子ども子育て会議 会議録【要点筆記】

1. 開催日時 平成26年11月19日(水) 午後7時～8時46分
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 2階 201会議室
3. 出席者 委員14名
西井会長、長谷川副会長、沖田委員、鴨野委員、木戸委員、齋藤委員、島田委員、
田中委員、土居委員、中川委員、中島幸子委員、中島純子委員、村田委員、横山委員
事務局(子育て支援室・こども課・健康課保健センター・教育総務課)8名
杉村民生部長、田原こども課長、武田こども課主幹、北島こども課主査、
中原保健センター所長、笠井教育総務課副主幹
中山子育て支援室長、山田副主幹、高野主任
委託業者 1名 アシスト(株)小河研究員
4. 欠席 委員6名
荒岡委員、磯辺委員、梅本委員、久恵委員、松田委員、山本委員
5. 傍聴人数 0名
6. 議題 (1) 保育園・幼稚園・認定こども園利用者負担について
(2) 計画書修正案について
(3) その他

開会 午後7時

会長あいさつ

【会長】

計画も大詰めになってきており、今まで出てきたいろいろな意見を集約してきた。委員のみなさまにもがんばっていただいている。市民のみなさんの声が十分に反映できているかどうかという視点で最終的な確認を行っていききたいので、忌憚のないご意見をいただきたい。

議事

(事務局)

欠席の委員、資料の確認 会議の公開について説明。会議録の公開について説明。

【会長】

協議事項(1) 保育園・幼稚園・認定こども園利用者負担について説明を願いたい。

(事務局)

資料1について説明する。

今月から来年度の保育園の入園受付を実施している。

上の表については、現行の国と南砺市の保育料を示している。国は8つの階層で徴収基準額を設定しているが、南砺市は国の基準に従い、所得税の課税額を基準に、11の階層に分けて保育料を徴収して

いる。同様に公立認定こども園についても、南砺市は保育料を参考に、11の階層に分けて保育料を設定している。

下の表については、3歳以上のモデルパターンを示している。来年度の新制度開始にあたり、保育料という言い方から利用者負担という言葉になる。国は8階層に分けて市町村民税の所得割課税額をもとに、利用者負担を設定することになっている。教育の部分については、5段階の階層で設定している。南砺市の利用者負担については、国の階層も吟味し、どの階層にどのぐらいの人数が集まるのかということをお案しながら、11階層に決定したいと考えている。少しでも現在の負担額と差が出ないこと、国の基準額に照らし合わせて公平な負担額となること、利用する施設によって利用者負担の差がないことを考えて、今後調整していきたい。

保育標準時間とは11時間で朝7時から夕方6時まで、保育短時間は8時間で、朝8時から16時までとしている。幼稚園部分は6時間として見ていきたいと考えている。区分をまず決めることが重要であると考えており、今後の利用者負担についても十分協議し、次回の1月の会議には提示したいと考えている。

【会長】

現在の説明についての質疑

階層は決めたが、利用者負担額は入っていない、ということをご了承いただきたいという説明であったが、いかがか。

【A 委員】

利用者負担の階層で、例えば11階層の部分で現行が734,000円であるが、新規の案は397,000円となっているが、この差はどうしてか。

（事務局）

大きく今回変わったのは、従来保育園の保育料は国の所得税額で階層を分けていたが、今回は市町村民税の所得割の額で決定することになったものである。計算上は、所得税を734,000円納めている人は、概ね市町村民税の所得割額が397,000円に相当する。内部調整をしていった上で、負担額を決めていきたい。

国税の税額は区分によって税率が異なるが、市町村民税は一律6%である。階層の数については、各市町村で設定することができる。どの階層にどのぐらいの人数が集まるのか、区分の税額を当てはめて階層が移動する人がどのぐらいいるのか、いろいろと検討も必要なので、利用者負担額の提示まではもう少しお時間をいただきたい。

【会長】

国の階層は8段階、南砺市の階層は11できめ細やかであるということと、税額の区分についても配慮しているということがこの表からもわかる。幼稚園の負担額が割安となるのは、保育時間が短いからか。

(事務局)

幼稚園は6時間が基本となり、6時間以上の保育となると延長分を負担いただくということになる。

【会長】

国そのものの仕組みが変わるということで、南砺市の利用者負担額が明記できないということでご理解いただきたいということによろしいか。

【会長】

協議事項2の南砺市子ども・子育て支援計画の修正案について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

前回の会議で素案を提示し、みなさんからいただいた意見をもとに検討し、修正したものがこの修正案になる。要点を中心に説明していきたい。

P15 計画策定の趣旨、については要点をまとめた。

P21 現状と課題については、南砺市の現状についてグラフで示した。表中の平成12年と平成16年の数値については、合併前の数値であり、ここ10年の推移が分かればいいのではないかと、平成12・16年の数値は削除した。

P22 合計特殊出生率の推移について、平成12年から平成16年の数値は削除した。平成17年の数値で、富山県の数値について、1.34から1.37と訂正した。

P26、P27 母親の就労状況の他、父親の就労状況も記載した。

P27 グラフの形を折れ線から棒グラフに変更した。

P34 前はニーズ調査の結果から南砺市の課題を7つあげ、みなさんの意見をいただき4つの課題に集約した。事務局の案として、ライフスタイルの変化に伴い、両親の育児に対する意識も変化してきている。そこで、親子の絆、家族の絆について考える機会があればいいのではないかと思ひ、その内容についてみなさんの意見をいただきたい。

P39 視点について、「子どもからの視点」から「子どもへの視点」、「保護者からの視点」から「保護者への視点」、「地域からの視点」から「地域への視点」と変更した。

P40 基本目標のⅢについて、育児と仕事の両立ということもあり、「働き方の見直し」を追加した。

P41 子どもの育ちを支え安心して成長できるまちづくりという文言を削除した。次年度から始まる子ども子育て支援法に関する事業体系図を示してある。

P42 次世代の計画について見直した施策の体系図を示してある。第5章に事業内容を載せている。

P46 前は地図だけを示していたが、今回は子育て支援施設の場所について地図内に示してある。

P48 平成26年度の実績値をもとに推計値を算出して記載するということがあったが、今回は間に合わなかった。実際に平成26年度の実績値で推計値を算出したところ、今回示している修正案の数値よりも大きくなる。P49～55までの数値も修正されていくので、後日修正したものを送付したいと考えている。

P50、52～55 県からこの計画案についてのヒアリングがあり、指導と助言があった。

P52～54 の事業量の確保策について、市外の施設の利用も見込まれるが、南砺市内の供給量で充分対

応できるということを文中に加えて、表中の数値も別にしてはどうかという指導があった。

そこで P52～54 の市外施設については参考程度とし、表とは別として記載したいと考えているがご意見をいただきたい。

P50 の市外の施設の利用については削除し、市内施設のみを載せ、必要利用者数のみを載せていくということにしていきたいと考えている。教育・保育事業のニーズ量について、このように変更してもよいかご意見をお願いしたい。

第5章について、前回みなさんのご意見をいただき、各担当課へ戻し再検討を依頼した。訂正のない部分もあるが、訂正いただいたところもある。

第2章で次世代の施策の進捗状況について担当課の評価について載せているが、停滞している事業や未実施となった事業については、第5章に検証したもので載せている。未実施のものについて、必要のないものは廃止、停滞している事業については、担当課で見直しをかけている。

P87 について、「父親の育児参加を推進」という部分について、事業を一つ追加している。また、事業の重複についても削除している。

【会長】

修正箇所等含めて、ご意見をいただきたい。最初の序章、第1章でご意見は。

【副会長】

P15 計画策定の主旨について、最後の文章で「実施することとしました」とするのか、「実施します」と結ぶのか。また検討いただきたい。

【会長】

P5 について 一文が長いので、句読点を入れて読みやすく

第2章についてご意見をお願いしたい。

課題を追加したこと、数値について合併前の数値を削除したということであったが、いかがか。

【B 委員】

P24 について 日常的に子育てに関わっている方というとらえ方について、母親だけ、父親だけについては、母子家庭や父子家庭を表すものなのか。

(事務局)

調査結果は、母親が育児に関わっている、父親が育児に関わっているというようにとらえていただければと思う。

【B 委員】

家庭で育児しながら、保育園やこども園に通っている子もいるというとらえ方でいいのか。育児に関わっている、ということとニュアンスが少し異なるのではないか。この表では幼稚園が育児に関わっていないととらえられると問題ではないかと思う。

(事務局)

調査票は国の案に沿って取ったアンケートである。

【B 委員】

この図だと、幼稚園はいらない、保育園は必要という方向にとらえられると問題なのではないかと思う。

【会長】

調査に答えた人が「日常的に」という言葉をどのようにとらえたのか、ということになるのではないかと思うが。何か注釈が必要と思われるが、検討をお願いしたい。

【会長】

課題については、先程事務局が示した案でいいということによろしいですね。

【会長】

P37～42 の第3章についてご意見をいただきたい。

【B 委員】

P37 の1 計画の基本理念について、1行目の文章について「豊かな水・緑の恵のもと、古から現代まで育まれてきた～」と直してはどうか。

【会長】

また検討をお願いします。

【C 委員】

南砺市を本市に書き方を統一してはどうか。

【会長】

第4章 p52 以降の市外施設の表し方について異論はないか。

【副会長】

広域入所の児童はどのように表現されるのか。広域入所は、南砺市の子どもが保護者の就労の関係で市外の保育園に行く場合や、他市の児童が南砺市内の保育園を利用する場合がある。

(事務局)

この計画は、南砺市の子どもに対する供給量を見るものであり、他市から受け入れている児童については、他市の計画の中で供給量を見るものである。広域入所で市外の保育園を利用している児童はいるが、実際は市外の施設を利用しなくても、市内の施設で供給が可能であることより、県の指導に基づい

て表記方法を変えたいと考えている。

市外の利用については、全く記載しないのではなく、別枠で記載するということである。

【会長】

P45 について、3行目の「下記の～」とあるが、この下記とは何を指すのか。あえて、「妊婦健康診査は～」という文章について載せる必要があるのか。また、イラストが文章と合っていない。

(事務局)

今、ご指摘いただいたところについては、また検討します。

【会長】

P48 表 4.1 の説明について、センサス変化率という言葉について何か注釈が必要ではないか。

【B 委員】

P66 表 4.18 妊婦健診の年度別見込み量と供給量について、年間の実利用数が見込み量と供給量になるのか。

(事務局)

表のタイトルと内容があっていない。また見込み量もこの表には記載されていないので、受診率という行を追加しようと思う。

【B 委員】

P63 (4) 病児保育事業について、前は「病後児保育」という言葉があったが、なくなっている。文中には病児・病後児保育という言葉もあるが、病後児保育の位置づけはどうか。

(事務局)

新制度の事業にある「病児保育事業」に、病児、病後児、体調不良児保育も包括されたものである。

【B 委員】

前は病児、病後児と分けて表現されていたのが、病児保育という言葉にまとめられたということではないのか。

【会長】

この表現であると、「病児保育」と限定されたものととらえられるが。

【副会長】

目次は「病児・病後児保育」となっているが。

(事務局)

目次や、他のページにおいて「病児・病後児保育」という表現を「病児保育」に訂正する。

【D 委員】

今までは病後児保育を実施してきた。新制度になると「病児保育」という表現になり、意識を切り換えていかなければいけない。新制度の中では病後児、体調不良児保育をきちんとやっていくという PR も必要なのではないかと思う。

(事務局)

新制度の事業の名称に合わせて記載したため、わかりにくいところもあると思われる。新制度の病児保育事業の中に、病児保育、病後児保育、体調不良児保育があるという説明を加えたいと思う。

【副会長】

病後児保育は今までも実施してきたということを記載すればいいのではないか。

【E 委員】

病後児保育を公立保育園 3カ所で実施しているとあるが、その中に喜志麻保育園も実施していると加えていただけたらいいかと思う。

【会長】

第 5 章についてご意見をいただきたい。施策については、一度各課に戻して訂正があったものと無かったものとあったということであったが、何かご意見はないか。

【副会長】

P70 現況と課題の 4 つ目について「～楽しさを知ってもらう」という表現よりも、楽しさを体験させるまたは味わわせるという表現の方が適切ではないか。

P72 施策④スポーツの振興の 2 つ目について、一つの文章だとわかりにくいので文章を二つにわけてはどうか。

【会長】

P81 子育て支援センターの問題については、アンケートの結果から、利用者が少ない、周知不足があるのでそのような課題に対応する対策が必要ではないか。

P34 課題 4 は少子化対策を上げているが、対する施策がない。中高生を対象とした乳幼児とのふれあいの機会はあるが、婚期を控えている人に対して子育ての楽しさを伝えていくような支援が必要ではないかと思うが。次世代の親の育成の施策をもう少し考えていただきたい。

(事務局)

検討する。

【副会長】

P76 施策②の2つ目について、公共交通機関の便数の増加よりも公共交通機関どうしの連携や連絡についても記載が必要ではないか。

【F 委員】

P74 の保育料の減免制度について、P70 では、幼稚園については補助金がある。公立保育園であれば第3子は無料であるが、南砺市内のどこの保育施設に行っても第3子が無料になればいいと思うがどうか。

(事務局)

来年度の保育料についてはまだ決定していないので、幼稚園の授業料についても、市ではいま方針を定めているところで、具体的にお示しできる状況ではないと思われる。委員のみなさんのご意見もあるということもふまえて、方針を定めていきたい。

【A 委員】

P101 施策⑤の安全・安心まちづくりの推進等について、防犯カメラの設置状況について記載があればいいのではないかと思う。

(事務局)

また検討する。

【F 委員】

P55 地域型保育事業の現況と課題について、ニーズ調査には対象となる自由意見がありませんでしたとあるが、P30 のニーズには小規模保育事業で8.1%とあるので、この表現でいいか。

【会長】

自由記載の意見はなかったが、ニーズはあるということなので、この部分における書き方については検討が必要ではないか。

(事務局)

自由記載がなかったということであるが、ここの文章の表現は検討したい。

【会長】

本日出た意見について、また事務局で訂正をお願いしたい。

その他について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

みなさんから頂いた意見を参考に、修正案を作成して最終案としていきたい。今後議会で報告し、パ

ブリックコメントを取っていきたいと思う。

その他について、10月7日の議会全員協議会で計画の素案について提示し、説明を行った。議員さんからは、教育委員会との連携の強化、市民に分かりやすい計画となるよう意見を頂いた。また、今回のこの計画について親しみのある分かりやすい愛称を公募してはどうかという意見があった。11月の子ども子育て会議で委員のみなさんに諮り、方向性を決めていきたいと回答したところであり、みなさんのご意見を伺いたい。

【会長】

ただいまの事務局の意見についてどうか。つけた方がいいとなれば、名前をどのように募集したらいいのかということも決めなければいけない。サブタイトルとして、親しみやすい名前をつけて連記するという形になると思うが、どうか。挙手をお願いしたい。

なくてもいいと思われる方が5名、わからない方が1名、多数決ではあった方がいいということになるがよろしいか。

反対の方について、意見をお願いしたい。

【G 委員】

計画の名称で全てを表しているので、あえてつける必要はないのではないか。

【H 委員】

中身がこれで変わらないというのであれば、別に必要はないと思う。

(事務局)

1月の会議には概要版を出すことはできると思う。

【G 委員】

国の方針として、最初からこのような名称が決まっているのであれば、特に名称について触る必要はないのではないか。

【会長】

賛成の方意見をお願いしたい。

【副会長】

中身がこれであれば、愛称は必要でないと思う。

【副会長】

キャッチコピーを作るわけではないですね？

【F 委員】

概要版を作成するのであれば、概要版に何か愛称があってもいいのではないか。

【会長】

計画を公開し、パブリックコメントをとる機会があるのであれば、愛称も併せて募集し、なければ会議で話し合うということになると思われる。

【G 委員】

名前をつけるのであれば、大人が子どものことを考えて作っているということが子どもにもわかる、ということが望ましいと思う。

【A 委員】

事業支援計画ということばが堅苦しい。～プランということの方がわかりやすいのではないか。

【会長】

反対意見も参考にまで聞いたが、この委員会では愛称をつけるということで、今後の作業を進めていきたい。

(事務局)

会議スケジュールについて、来年の1月に最後の子育て会議を行う。

12月の全員協議会で計画書案を提示し、12月中旬に計画書案についてパブリックコメントをとるので、愛称についても併せて記載して募集したいと思う。1月の最後の会議で愛称も決定したい。

児童館の指定管理者について、10月末の選定委員会で諮ったところ、福光青葉幼稚園に内定した。12月議会で議決をとり、決定とする予定であることを報告する。

【副会長】

閉会のあいさつ

終了 午後8時46分